

タイトル「**2021年度スポーツ科学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	SSCS2317		
科目名	コーチング学研究法演習		
担当教員	種ヶ嶋 尚志		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	木 3		
講義室	1404	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基礎		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP4-F〔探究力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP5-J〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 ■CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 F1 探求と論拠（25%） F2 問題解決（25%） I1 理解・分析と読解（15%） I2 量的分析（15%） I3 情報分析（15%） J2 創造的思考（5%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発目標ステージとの対応 2 進期期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	本演習は、コーチング学の学習及びコーチング実践の入門と位置づけられ、各自の専門種目を中心に、競技特性に応じたコーチング理論を学び、コーチとして指導現場で活動するための基本的な考え方や、パフォーマンスを獲得するためのコーチング技術及び能力を習得するための研究法を理解することを目的とします。授業形式は演習形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型・ライブ配信型）を取り入れます。 ■キーワード：コーチング学、コーチング技術、反省的実践		
授業の趣旨	■副題 コーチング学およびコーチング実践を様々な領域の研究から学ぶ ■授業の目的 よりよいパフォーマンスを獲得させるコーチング技術及び能力を習得するための研究方法について学習し、自身が指導者の立場となった時に必要な能力の要素がどのような科学的背景を持つのかについて説明することができることを目的とします。 ■授業のポイント 自身が選択するゼミナールを決定するために必要な知識や経験を様々な領域の研究から学びます。		
総合到達目標	■自身が指導者の立場となった時に必要なコーチング能力の要素がどのような研究方法を基に検討されるのかについて実践を通して理解する。 ・自身の専門とする競技におけるコーチング理論の特徴について過去の文献を整理し説明することができる。（第1回～第5回） ・様々な領域におけるコーチング技術及び能力を習得するための研究に関する分析方法や結果に対する解釈について説明することができる。（第6回～第15回） ・実際のコーチング現場において学習した内容をどのように反映できるのかについて説明することができる。（第13回～第15回）		
成績評価方法	■リアクションペーパー（20%）：適用ルーブリック：F1・F2 （評価の観点）授業内容について授業終盤にリアクションペーパーの記載を行い記載内容の評価を行います。 （フィードバックの方法）リアクションペーパー提出後に授業内容の振り返りを行います。 ■研究実践報告書（40%）：適用ルーブリック：I1・I2・I3 （評価の観点）研究実践回（第7回～第14回）の内容について報告書の作成を行い、その内容の評価を行います。 （フィードバックの方法）すべての実践回終了後、研究実践内容の解説および振り返りを行います。 ■プレゼンテーション（40%）：適用ルーブリック：F1・F2・I1・I2・I3・J2 （評価の観点）自身が調査した内容についてを発表を行い、その内容について評価を行います。 （フィードバックの方法）発表後に講評を行います。		
履修条件	特にありません。		
履修上の注意点	特にありません。		

授業内容	回 内容
	1 ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の進め方や評価について説明を行い、授業の概要やその方法について理解し、授業でどのような内容を学ぶかについての準備を行う。 ③予習（１２０分） シラバスを読み、授業の流れについて確認しておく。 ④復習（１２０分） ガイダンスによって説明された内容について再度シラバスを確認し、自身の専門とする競技や興味のある競技についてのコーチングの実際を確認しておく。
	2 ①授業テーマ 研究の実際 ②授業概要 そもそも研究とはなにか、どのような種類があるのか、研究成果としての論文はどのようなものか、さらに文献の検索方法や読み方について説明することができる（Ｆ１・２）。 ③予習（１２０分） 研究をするということはどのようなことを指すのかについて自身の考えを整理しておく。 ④復習（１２０分） 自身が考えていた研究と説明された研究の相違について整理し、今後自身がどのようなテーマで研究を行ってみたいかについて自身の考えを整理しておく。
	3 ①授業テーマ 研究法の紹介① ②授業概要 質的研究・量的研究のそれぞれの方法についてその内容や相違について学習し、その内容について説明することができる（Ｉ１・２・３）。 ③予習（１２０分） 質的研究・量的研究とはどのような研究を指すのかについて確認しておく。 ④復習（１２０分） 自身の専門とする競技のコーチングにおけるそれぞれの研究方法の実際について具体例を挙げられるよう確認しておく。
	4 ①授業テーマ 研究法の紹介② ②授業概要 研究法の実践①、②に関する研究方法・分析方法について学習し、その内容について説明することができる（Ｉ１・２・３）。 ③予習（１２０分） 質的研究・量的研究のそれぞれで扱われる領域について確認しておく。 ④復習（１２０分） 自身の専門とする競技のコーチングにおけるそれぞれの研究法の実際について実践回で展開される領域を中心に具体例を挙げられるよう確認しておく。
	5 ①授業テーマ 研究法の紹介③ ②授業概要 研究法の実践①、②で実践が行われる研究法に代表される自身の専門とする競技に関する研究や報告を整理し、得られた知見についてコーチングの現場にどのように還元していくことができるかを説明することができる（Ｆ１・２、Ｉ１・２・３）。 ③予習（１２０分） 自身の専門とする競技における研究とはどのような研究領域を持つのかについて確認しておく。 ④復習（１２０分） 本授業で説明された内容のほかにもどのような領域があるのか確認しておく。
	6 ①授業テーマ 研究法の紹介④ ②授業概要 次回からの研究法の実践にて展開される各内容について把握し、その研究法について手順等を説明することができる（Ｆ１・２、Ｉ１・２・３）。 ③予習（１２０分） 担当教員の専門分野を確認し、自身の専門競技に関わる研究報告についてその専門分野での報告を確認しておく。 ④復習（１２０分） 実践する予定の内容についてその手順や方法を再度確認しておく。
	7 ①授業テーマ 研究法の実践①－１ ②授業概要 コーチングに関連する研究方法について先行研究を概観し説明することができる。あわせて研究法の実際の準備を行う。（Ｆ１・２、Ｉ１・２・３）。 ③予習（１２０分） 自身が興味のある分野における研究の方法や手順について過去の文献から確認しておく。 ④復習（１２０分） 実際に授業内で取り扱われる研究法を用いて行われた研究について、自身の専門とする競技での具体例を確認しておく。
	8 ①授業テーマ 研究法の実践①－２ ②授業概要 コーチングに関する研究方法について設定されたテーマに基づき、その方法論を実践し、その手順等を説明することができる（Ｆ１・２、Ｉ１・２・３）。 ③予習（１２０分） 自身が実践する研究の方法について手順などを再度確認しておく。 ④復習（１２０分） 実践された内容、手順を含め次週の分析のため再度確認しておく。
	9 ①授業テーマ 研究法の実践①－３ ②授業概要 コーチングに関する研究方法について実践後に提示された結果について分析を行い、その分析された結果について整理することができる（Ｆ１・２、Ｉ１・２・３）。 ③予習（１２０分） 実践された内容を整理し、結果の算出に必要な準備を行っておく。 ④復習（１２０分） 行われた結果の分析に基づきプレゼンテーション時に必要な情報を整理する。
	10 ①授業テーマ 研究法の実践①に関するプレゼンテーション ②授業概要 実践①で行われた内容に関して結果を整理しプレゼンテーションを行う。そのプレゼンテーションについて質疑応答を受け、自己及び他者で評価を行い、その内容を精査、検討することができる（Ｆ１・２、Ｉ１・２・３、Ｊ２）。 ③予習（１２０分） プレゼンテーションのための情報を整理し、準備を行っておく。 ④復習（１２０分） プレゼンテーションに関する自身の評価を行っておく。また、次によりよいプレゼンテーションが行えるよう検討する。
	11 ①授業テーマ 研究法の実践②－１ ②授業概要 コーチングに関連する研究方法について先行研究を概観し説明することができる。あわせて研究法の実際の準備を行う。（Ｆ１・２、Ｉ１・２・３）。 ③予習（１２０分） 自身が興味のある分野における研究の方法や手順について過去の文献から確認しておく。 ④復習（１２０分） 実際に授業内で取り扱われる研究法を用いて行われた研究について、自身の専門とする競技での具体例を確認しておく。
	12 ①授業テーマ 研究法の実践②－２ ②授業概要 コーチングに関する研究方法について設定されたテーマに基づき、その方法論を実践し、その手順等を説明することができる（Ｆ１・２、Ｉ１・２・３）。 ③予習（１２０分） 自身が実践する研究の方法について手順などを再度確認しておく。 ④復習（１２０分） 実践された内容、手順を含め次週の分析のため再度確認しておく。
	13 ①授業テーマ 研究法の実践②－３ ②授業概要 コーチングに関する研究方法について実践後に提示された結果について分析を行い、その分析された結果について整理することができる（Ｆ１・２、Ｉ１・２・３）。

	③予習（１２０分） 実践された内容を整理し、結果の算出に必要な準備を行っておく。 ④復習（１２０分） 行われた結果の分析に基づきプレゼンテーション時に必要な情報を整理する。
14	①授業テーマ 研究法の実践②に関するプレゼンテーション ②授業概要 実践①で行われた内容に関して結果を整理しプレゼンテーションを行う。そのプレゼンテーションについて質疑応答を受け、自己及び他者で評価を行い、その内容を精査、検討することができる（F 1・2、I 1・2・3、J 2）。 ③予習（１２０分） プレゼンテーションのための情報を整理し、準備を行っておく。 ④復習（１２０分） プレゼンテーションに関する自身の評価を行っておく。
15	①授業テーマ コーチング学研究法演習のまとめ ②授業概要 これまで学習してきた研究法、自己及び他者のプレゼンテーションの内容を整理し、コーチング学研究法演習のまとめを行う。なお、本授業回にて全体のプレゼンテーションの講評を行う。 ③予習（１２０分） これまで2回実践した研究法の手順、内容、結果、プレゼンテーションについて整理しておく。 ④復習（１２０分） 自身及び他者が発表した内容を整理し、次年度以降のゼミナールに向けた自身の研究テーマを検討する。
関連科目	ゼミナールⅠ・Ⅱ[SSCS4605・4606]
教科書	コーチング学への招待 大修館書店
参考書・参考URL	指定はありません。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 授業時に連絡します。 ■オフィスアワー 各担当者に確認してください。
研究比率	

